

今後の取組みについて

今回のフォーラムを通じて、自分だったら明日から何ができるのかを考えてもらうきっかけになったかと思います。今後ワークショップメンバーが考えたことをFacebookをはじめいろんな所で公開していきます。また、活動を考えられる場も展開していきたいと思っています。将来的には、行政が関わらなくても、自分達のできることは自分達でやっていくまちづくりができればと考えています。

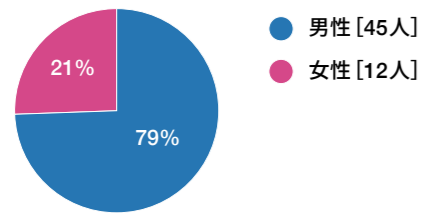
Facebook ページも開設しました!

各チームが考えた「活動リスト」やフォーラムで上映した「活動映像」は、Facebook ページからご覧になれます。ぜひのぞきにいらしてください。

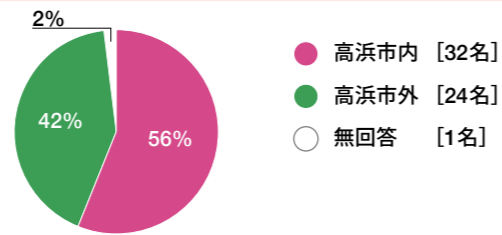


アンケート結果

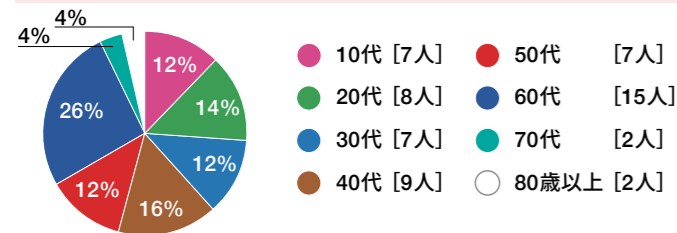
Q1.性別を教えてください。



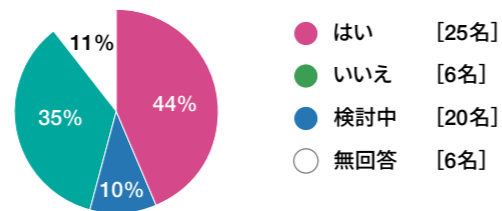
Q4.お住まいを教えてください。



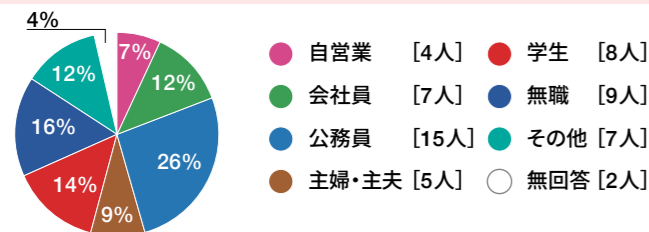
Q2.年齢を教えてください。



Q5.参加してみたいと思いませんか。



Q3.職業を教えてください。



Q6.一緒に活動してみたい・面白そうな企画を教えてください。



studio-L
studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。http://www.studio-l.org

〈問合せ先〉高浜市役所総合政策グループ
〔住所〕〒444-1398 高浜市青木町四丁目1番地2 [電話] 0566-52-1111 (内線339) [E-mail] seisaku@city.takahama.lg.jp

しあわせづくりフォーラム



ワークショップでの成果を発表しました。

3月19日(土)「ハッピーミュージアム」と題して、かわら美術館にてこれまでのワークショップの成果となる「活動リスト」と「活動映像」の発表を行いました。この日のために各チーム、練りに練った映像を編集し会場を盛り上げました。発表後は、studio-L代表の山崎亮とワークショップ参加者を交えて、高浜市民ひとりひとりができる「しあわせ」についてのトークセッションを行いました。

高浜市長よりごあいさつ

福祉の本来もつ意味は「ふだんの暮らしがよくなること」です。今回の地域福祉計画の改定にあたり、福祉がもつ本来の意味のもと、地域の心配事は、地域みんなで解決していける仕組みづくりができればと思います。計画策定に並行して、市民が集まり考えられるワークショップを実施しました。フォーラムを通じて、いかに地域のことを考えられるか、その発端になればと思います。

- 〔日時〕 3月19日(土) 15:00~17:00
- 〔場所〕 かわら美術館
- 〔プログラム〕
 - ・開会のごあいさつ
 - ・市長ごあいさつ
 - ・地域福祉計画について
 - ・しあわせづくり計画ワークショップより活動リストと動画の発表
 - ・トークセッション
 - ・今後の取組みについて



各チームより発表

ワークショップにて取り組んできた高浜市民ができる「活動リスト」とそれに基づいた「活動映像」の発表を行い、趣向を凝らした発表方法で会場を惹きつけていました。どのチームにも共通していえることは、私たちの生活を支える健康や食、遊び等はひとりをするのではなく、友人やご近所さんを巻き込んでやってみることが大切だということが見えてきました。隣にいる人をちょっとだけしあわせにする取組みが、おじいちゃんやおばあちゃん、まちの歴史を紡ぐことになったり、子どもたちの遊びや相談相手になれることを、映像を通じて体感することができました。

音楽・踊りチーム



【活動リスト】
ふらっとカラオケで集まろう／ふらっとダンスしよう／ふらっと校歌を歌おう／ふらっと特技を披露しよう／ふらっと楽器を奏でよう／ふらっと誕生日を歌で祝おう

趣味や特技を個々に楽しむだけでなく、同じ趣味の人同士で集まると楽しいのではないかと、まわりの人を誘っていただくと楽しいのではないかと考えました。そして、まわりの人を誘うために「気軽にふらっと」できる活動があればと思いリストを作りました。

アウトドアチーム



【活動リスト】
自然のなかでのんびり／子ども遊び／ブラ高浜／高浜版バーベキュー／秘密基地づくり／会話をしながらゴミを拾おう!

天気の良い日は、外に出てしあわせを探しにいきましょう。山や海など、市外の特別な場所に行かなくても、高浜市内でできるアウトドアはたくさんあります。大人が、子どもたちを誘って、遊ぶことを真剣に楽しめば、時間はあっという間に過ぎ、子どもたちも楽しんでくれます。

健康・スポーツチーム



【活動リスト】
みんなで大なわとび／てつぼう先生／いつでもどこでもラジオ体操／あなたのウォーキングコース／万歩計で世界を歩く／3万円の服より3kgやせる

時間や場所を問わずに健康になれるような活動を考えました。高浜には鬼のみちや人形小路などいろんなウォーキングスポットがあります。高浜の道を歩くことで、いろんな出会い、まさに未知との遭遇があるのではないかと思います。適度な運動をし、健やかな生活ができたらと思います。

食チーム



【活動リスト】
19日は家族そろって食べる日!／高浜の食再発見!／キッチン、つまみgood eat／レッツノコミュニケーション／カレーざんまい(三昧)／ピクニックだよ!全員集合!!!

家族が揃っていてもそれぞれが違うものを食べていることはありませんか。これを個食といいます。男子厨房に入らずという言葉もありますが、老いも若きも関係なくお喋りしながら生まれるコミュニティの中では、子育ての相談や犯罪防止、防災の役に立つこともあるはずですよ。

教育チーム



【活動リスト】
教えて!あいさつ／教えて!「かわら」はどこから／教えて!近所の楽しいところ／教えて!今さらきけないスマホ／教えて!あなたの心に残った本／教えて!ゴミはどうなる

教育＝教え合うことによって、噂のようにしあわせの輪が広がっていくことをイメージして活動を考えました。小さい規模からあいさつをはじめていき、それが少しずつ広まることや、本の交換では、本を通じて人柄の理解といったコミュニケーションが期待できます。

文化・芸術チーム



【活動リスト】
探せ!!私だけのかわらスポット／高浜の文化と食のおしゃべり会／イチオシ!!私の愛読書／未来へ語り継げ!!高浜の文化／よみがえれ!!私の青春時代／笑撃!!ピフォーアフター

高浜には、三州瓦や鬼瓦、鬼みちまつりやおまんこ祭りなど、独自の文化があります。そういったものをインターネットなどを活用してたくさんの人に広げてみましょう。また、自宅にある古い写真を見ながらおじいちゃんたちとお話することで、まちの成長と会話を楽しむことができると思います。

トークセッション

高浜しあわせづくり計画ワークショップを運営したstudio-L代表の山崎氏と、ワークショップに参加された白木さん(食チーム)、原田さん(音楽・踊りチーム)、沢田さん(アウトドアチーム)を交えてトークセッションを行いました。



—地域福祉計画について

山崎:これまでの地域の計画といえば、市民が触れる機会が少なかったり、よいことを書いていても文字が多くて読みにくかったりする課題がありました。今回高浜市の地域福祉計画では、計画策定に合わせて、市民自身が計画を実現するために「こんなことをします」ということを表すために映像をつくりました。映像の利点は、印刷物ではないので、計画策定後も次々に映像を追加することができます。

—実際に映像をつくってみてどうでしたか?

原田:映像をつくることは難しいと思っていましたが、いざ台本をつくってやってみると市民が集まれば凄いパワーを発揮できることに気付かされました。また、スマホで気軽に撮れることにも驚きました。

沢田:撮影する中でネタを探している内に、しあわせは作るのではなく、身近にあるちょっとしたことだと気付きました。

山崎:ファインダー越しとは言いますが、こうして終えてみると、「しあわせづくり」と「映像」は親和性が高いといえますね。

白木:活動を考えてやっている自分たちは楽しいが、これをどう映像として伝え取組みに変えてもらえるかを考えるのが難しかったです。

山崎:映像はつくっている時が一番楽しいですね。秘密基地ってつくっている時が楽しくて、完成したら遊ばなかつ

たり。しあわせづくりも次々に考えてやってみて、振り返った時に楽しかったと思えるのがいいかもしれませんね。21世紀では地域福祉をどう展開していくかが課題になっていきますが、今回高浜市の取組みは、福祉という枠を高齢者に限らず、年齢差や性別関係なくできるようにしたので、ひとりひとりが自分事として捉えられるのがよいことです。一見、福祉に見えないかもしれないこの取組みを続けていくことが、地域の誰かと繋がることになり、それが誰かの役にたち、誰かがひとりになってしまうのを未然に防ぐことが期待できます。今回はみなさん力を入れて映像を作ってもらいましたが、今後はもっとラフな形で撮ってみると、より市民が参加しやすい形になるかもしれませんね。

—今後やってみたいことはありますか?

原田:今回の活動をきっかけに、地域全体が明るくなっていけばと思います。

沢田:まだできていない活動リストをひとつひとつやってみたい。いま高浜食育フェスタに関わっており、この場ではいままでの食とこれからの食を見直す機会にしたいと思っています。まだできていない活動リストを実践する場にもしたいと思っています。

白木:自分の周りにはいる家族や友人から、twitterのつぶやきのように広めていきたいです。